



左右へ飛んで来るボールを追う小中学生

5/26 **ボールを追いかけラリーの応酬**  
市民ソフトテニス大会

市民ソフトテニス大会が、5月26日に市民大和テニスコートで行われました。市内の小中学生136人が参加。練習の成果を発揮し汗を流しました。大会の結果は次のとおり（敬称略、かっこ内は所属名）。男子の部、優勝＝龍一吹・白谷聖彩ペア（柳城中）、準優勝＝小長凌大・江崎太一ペア（同）。女子の部、優勝＝小野綾香・鮎川綾乃ペア（三橋中）、準優勝＝矢ヶ部華穂・河野彩葉ペア（柳南中）

6/3 **つないだボールをアタック**  
市緑柳杯争奪ソフトバレーボール大会

市緑柳杯争奪ソフトバレーボール大会が、6月3日に市民体育館で行われました。4人制のレディースの部には10チーム、男女混合で4人制のトリムの部には22チームが市内外から参加。154人の選手が白熱したプレーを展開しました。大会の結果は次のとおり。レディースの部、優勝＝B.Mill、準優勝＝EMKB50、3位＝クラウド・M。トリムの部、優勝＝モンキーズB、準優勝＝かっぱよか太郎A、3位＝モンキーズA



ブロックの間隙を狙ってアタックする選手

6/3 **子どもたちが思いを発表**  
市青少年育成市民会議「意見発表会」

市青少年育成市民会議は6月3日、小中学生による意見発表会を三橋生涯学習センターで行いました。子どもたちに、柔軟な発想力や想像力などを身につけてもらおうと毎年開催しているもの。発表するテーマは「いま小、中学生が訴えたいこと」。発表者は学校や地域での活動で学んだことや笑顔やあいさつ、友達の大切さ、食の大切さなど、日ごろの思いや今後実践したいことを力強く発表し聴衆から大きな拍手を受けていました。



目頃の思いを力強く発表した12人の小中学生

6/11 **ボクシングでインターハイ出場**  
県高校総体全九州予選優勝

市出身で北九州市にある豊国学園高校2年の田中真那斗君が、5月19、26日に太宰府高校で行われた、県高校総体全九州予選ライトウェルター級で優勝。九州高校総体および8月に岐阜県で開催される第72回全国高校選手権大会（インターハイ）への出場権を獲得しました。6月11日に沖教育長を表敬訪問した田中君は「どちらの大会も優勝が目標。ひとつひとつ勝つ上がっていきたく」と力強く話しました。



沖教育長へ結果報告をした田中君（右）

6/13 **地域福祉を一步でも前へ**  
「宝箱」はみんなの夢がかなう場所

4月から新拠点がスタートした社会福祉法人たからばこ第1宝箱「そらまめ」。同施設は、障がい者の居宅介護や就労支援、相談支援、短期入所などを行っています。利用者の元気なあいさつに迎えられた部屋では、彼らが、桐箱に入った高級花火の材料になる、わらの選別作業中。細かい作業を丁寧に言い、その工程の説明をする無垢な姿に感銘を受けました。「そらまめ」の理念の一つは“障がい者が重い人の仕事作り”。地域の人から提供してもらったり、近隣の里山から回収したりした間伐材を、利用者が運ぶ・切るなどの作業を行い、薪ボイラーを使った入浴サービスに利用しています。第1施設長の橋爪大輔さんは「いろんなニーズや要望に応える場所でありたい。何十年経っても、自分たちの町が住みやすく、自慢できる場所であってほしい。一人一人違うから面白い。違いを受け止め、お互い混ざり合うことが大事」と話しました。

【取材を終えて】私たちができる当たり前のことが、利用者にとっては「夢」であり、思い込みで世界を狭くしていることがあります。可能性が広がり、夢が描けてかなう場所「そらまめ」。笑顔と笑い声が心に残っています。



1 利用者がわらを丁寧に選別 2 施設が新しく導入した薪ボイラー 3 第1宝箱「そらまめ」のスタッフのみなさん

（取材：ふるさとレポーター古賀理紗）



▲受賞した「本吉屋本店」▶市長に報告を行った本吉さん

6/12 **町並みに調和した景観を評価**  
本吉屋が県屋外広告景観賞受賞

旭町にあるうなぎ屋「本吉屋本店」が、第7回福岡県屋外広告景観賞を受賞しました。129点の応募作品の中から入選。落ち着いた雰囲気や立ち並ぶ家屋などの町並みと調和しているところが評価されました。6月12日に金子市長へ受賞報告を行った、10代目店主の本吉勉さんは「お客さんには、料理と一緒にお店の雰囲気も味わってほしい。これからは景観を大事にしていかなければ」と話しました。

6/13 **海苔関係者が被災地支援**  
朝倉市へ海苔500袋届ける

若手海苔養殖業後継者でつくる福岡県有明海区研究連合会（須崎孝義会長）の15人は、6月13日、昨年の九州北部豪雨で被災した朝倉市を訪れ、1袋半切り5枚入りの海苔500袋を寄贈しました。海苔に必要とされる有明海の栄養は筑後川上流から運び込まれているため、下流域で恩恵を受ける者として恩返しをしようと発案。須崎会長が林裕二朝倉市長に海苔の入った箱を手渡すと、林市長は「とても励みになります」とお礼を述べま



朝倉市長（左）に海苔を寄贈する須崎会長（右）